

# SUSONO

vol.6  
[2019.8]

## このまちで叶える 自然体の暮らし



前橋移住コンシェルジュは  
あなたの夢を応援します。

移住コンシェルジュ  
鈴木正知



https://www.facebook.com/maebashijju/

### Let's Learn 上州弁

生糸を売るのも  
よいじゃねえ  
やな



下村 善太郎  
しもむら ぜんたろう

#### 解説

1827年、商家の息子として生まれる。横浜開港を契機に生糸商として成功を収め、前橋城再建や小学校の建設に多額の寄付を行うなど、近代前橋の発展に貢献。群馬県庁の誘致にも奔走し、私財を投じた。1892年、市制施行に伴い初代前橋市長となる。

「よいじゃねえ」は日常耳にすることも多いボキャブラーな上州弁。「大変だ」「寂しい」「それ、いいじゃない」と言っても「それ、いいじゃない」という意味ではないので、お間違えのないように。

前橋にある企業の仕事や様々な取り組みを紹介します。  
あなたに合った“前橋での働き方”が見えてくるかも!?

## ハロー！WORK まえばしWORK

公共施設にアイデアと市民の力を！

株式会社オリエンタル群馬

「未来を地域と共に」を合言葉に、公共施設の管理運営や地域連携事業を展開する。平成25年の創業から積み上げた実績や事業推進力により、着実に地域が動き始めている。県立敷島公園では、ウェディングフォトやまち映画の撮影、野外映画上映、J3公認スタジアムでのキャンプイベント等を市民と一緒に進めてきた。前橋市中央児童遊園のなばあくでは、日々の様々な企画や情報発信の強化により、平成29年には年間利用者数の最高記録を樹立。「前橋公園まつり」や“るなば DE ないど”も人気イベントに育て上げた。全国でインフラ構築等を展開する親会社・オリエンタルコンサルタンツとの盛んな人事交流も地域に価値を加えている。さらに前橋の上武国道沿いへの道の駅開業も控え、話題の尽きる気配はない。



協力 | 株式会社オリエンタル群馬  
〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 2丁目 12-1

## 移住コンシェルジュ便り



そろそろ、あなたにとって理想の暮らし方にスイッチが入りましたか？ スイッチが入ったら一度、その理想の暮らし方を私たちに教えてください。近い将来、それが手に入るかも。

前橋移住コンシェルジュは、前橋だけを見ていた訳ではありません。理想はもちろん「前橋」に移住してからも、あなたの思い描く理想の暮らし方、あなたと一緒に実現することです。ただ、ここからが重要です。よく聞いて！ 私たちが本気でサポートしたいのは、あなたにとって理想の暮らし

を実現してもらうことなんて、一緒に選んでいくのです。その中から、ゆっくり暮らせる地方都市・前橋に移住してもらい、結果「前橋市は人口増に転じたね！」って、そのためにやらないですよ。私たちが「オールぐんま」が衰えていくのを防ぐこと、相談者目線「を徹底しています。お一人一人のニーズを汲み取り、その方の「したい暮らし」は移住後も持続可能な、色々な意味で発展的に考えられるかをしっかり考慮し、県内35市町村の手札の中から

### 鈴木正知 (すずき まさと)

東京都町田市出身。上野動物園や葛西臨海水族園の飼育員、長野県戸隠イースタンキャンプ場管理人 インタープリター担当などを経て、2006年に前橋市へ移住。市内23の行政区を集めて地域活動の情報共有をする「前橋地域づくり協議会」や「前橋の地域若者会議」を立ち上げて以来、前橋市の地域づくりに携わる。2015年より、前橋市の移住コンシェルジュに就任。



## 歩いて帰ろう

川を渡る 夜風が涼しくなってきたので 遠まわりして帰ろう  
草むらの虫たちも いつものまにか 次の季節の序奏を奏ではじめている



Instagram  
@susono\_maebashi

### 取材メモ

数年前 本業のかたわら、週一回のペースで知り合いの八百屋を手伝っていたことがある。群馬で採れた新鮮な野菜を午前中に集荷して車に積み込み、午後には東京の店頭で並べるといって、珍しいスタイルの八百屋だ。初めは何もわからないまま店頭で、野菜を求めに来るお客さんたちの会話から、次第に群馬産の野菜の魅力に気づきはじめて、近くには商店街やスーパーもあるのに、新鮮な旬の野菜を求めてたたくさんの常連客が毎週やって来る。その棚に、すきな農園さんの平飼卵もあって、竹瀬さんが新たな拠点とする「I RORI場」に集まる人々は、それぞれが目的を持って、その実現のためにゆるやかに連携しているようだ。JR前橋駅から車で30分程の赤城山中腹にあるこのエリアは、広大な農地が広がり、市街地とは全く異なる環境だった。古い柱時計が時を刻む古民家には、まるで異世界のような穏やかな時間が流れている。ほかの土地にはない、とても前橋らしい何か、今、ここから始まるうとしていくことに希望のようなものを感じた。(デザイン：殿岡 渉)

ユニーク  
**U-29ピノール**  
建築設計事務所勤務  
岡田 友大 さん (29)

地元は栃木です。前橋には、Jリーグの観戦などでよく訪れていました。高校を卒業して前橋工科大学へ進学。大学の友人とルームシェアをしたり、学生向けのシェアハウス「シェアフラット馬場川」に住んでいました。その頃、アーツ前橋の1階にある「ROBSON COFFEE」というカフェに入り浸っていて、そこで知り合ったアート関係の方との縁で、4年ほど前からはアートスペース「Maebashi Works」のメンバー・住人となりました。当時そのカフェの店長だった人が前橋にオープンした「FLAT Table」では、設計を任せてもらえることに。初めて一人で担当する仕事だったので貴重な経験でした。これからも建築を通して前橋との縁をもっと増やしていけたら嬉しいです。

竹淵さんのおすすめ

Cafe Frida  
(カフェ フリーダ)

前橋市千代田町 2-6-1



ビールもコーヒーも、一杯から楽しめるカフェ。メニューにはステーキ、パスタ、タコライスなどの多国籍料理が並ぶ。店主の池下さんと竹淵さんは、〈ノマド市〉を一緒に企画していた仲でもある。すぎな農園の卵を使い、この店を愛した「奇跡のシェフ」神尾哲男さんから授かったレシピによるチーズオムレツは、竹淵さんも絶賛の一品。



特技を生かして仕事をしながら、すぎな農園を手伝う丸山さん（写真右）も、田舎の環境や野菜作りに憧れて東京から移住してきた。



鶏たちが自由に運動できる「平飼い」は、自然な環境で鶏のストレスを軽減する飼育方法。黄身の色も自然な黄色で、澄んだ味がする。

てしまします。それはちょっと大変なところかも」  
智子「私は東京都出身なので、前橋は空間が広いのがいいですね。空も広いし。都内でも田んぼや畑が身の回りにあるような環境で育ちましたが、それでも都市部は目と鼻の先。人口が過密な状況を肌で感じていたので、こののんびり過ごせる空気は魅力的ですね。ただ、大都市に比べると交通が不便ですね。東京にいる時は自分が車の免許を取るなんて思いませんでした。車がないとどこにも行けないので、中之条町の町営の教習所へ通いました。都内にいる頃は編集の仕事をしていて一夜漬けタイプだった私にとって、やるべきことをその時やらないといけない農業に慣れるのは時間がかかりました（笑）」  
今ではマイペースに楽しく暮らしているという智子さんの笑顔にほっこりしていたら、「ポーン、ポーン」と柱時計の音が古民家の中に響き始めた。

移住は自力と他力

進「移住の際は、農業のための土地と自分たちの暮らす場所の両方を準備する必要があります。空いている畑を探しては近



隣の人に聞いて回ったり、市の農業委員会に直接聞いて交渉したりしていました。最初には倉淵へ移住した時にも同じことをしていたので、25年以上経ってはいいたものの要領はわかっていました。  
それと、実際に移り住んで農業を始めたら周りの人が声を掛けてくれるようになりました。前橋移住コンシェルジュの鈴木さんもその一人。移住や地域生活のサポートをしているということで、鶏舎を立てる土地はありませんかと相談に行きました。彼は本当にフットワークが軽かったです。『今から農家さんのところへ一緒に行きましょう！』と言われ、勢いそのままの農家へ向かったんです。そうしたら、鈴木さんの紹介してくれたその農家さんが『会合で鶏舎の土地のことを話題に出してあげるよ』と、そのおかげですぐに土地が見つかり、鶏舎を建てることができました」  
智子「その後、私たちの住む家も見つかりました。富士見町に住んでいた友人の勧めで、空き家に半年くらい仮住まいさせてもらっていたんです。その頃、犬の散歩の途中で良さそうな空き家を見つけ、近隣の人にその所有者を紹介してもらい、住めることに。昭和47年頃に建てた、サ・昭和という感じの落ち着いた家なんです」

進「1990年に、東京から群馬へ戻って来ました。出身は北西部の山あいにある旧吾妻町。現・吾妻郡東吾妻町。6年ほど都内で福祉関係の仕事に従事したあと、もともと関心があった農業の道を志し、倉淵で生活始めることにしました。  
私たちが営むのは、養鶏場を中心とする（すぎな農園）という農場です。平飼いなので、床は土。その上で200羽くらいの鶏たちが自由に動き回っています。のびのびストレスなく過ごしてもらおうと、おいしい卵を産んでもらえるんです。それと、自前でブレンドしている餌を与えるのも大切なこと。一般的な飼料はどうもろくしを主体にしていますが、それを一切使わずに国産のお米や麦で作っています。それゆえ、レモンイエローのような自然な色合いの黄身ができあがります。卵独特の臭みが弱くあっさりした風味だからか、子どもたちには特に人気ですね」  
進「前橋に移り住んだのは、ファミリールームという国の事業に携わっている友人から声をかけてもらったのがきっかけでした。これは、厚生労働省が定めた大規模住居型児童養育事業のこと。家庭環境を失った子どもを里親や児童養護施設へノマド市」再開  
頼もしい仲間もやってきた  
進「鈴木さんとは、彼らがこの場所へ（IRORI場）というコミュニティ・スペースを始めるということ、そこで再会しました。以前は前橋の中心市街地で定期的に実施していた（ノマド市）というマルシェを、IRORI場の庭を活用して再開することになりました。開催するのは、毎月第3土曜日。まちなかで開いていた頃は出店者がなかなか集まらなかったのですが、ここでもよくなりました。途端に、農業系だけでなくキッチンカーやクラフト系のブースなど、初回から20店の出店規模になりました。鈴木さんの強力なネットワークのおかげです。  
もうひとつ、このまちで実現したいことがあるんですよ。それは、農業体験や暮らしの体験、農業だけではなく、田舎の暮らしも含めて感じてもらえたらと。名付けて、（のらたまの庭）」  
智子「お客さんというより、一緒にやりましょうというスタンスです。都会にいる人って、土に触れていなかったりとか、その感覚がわからなかったりすると思うんです。群馬の方が生活しやすいね、地方で暮らすのもいいね、って感じてくれる人を増やしたいです」  
進「最近ね、東京都出身の元気な女の子がよく手伝いに来てくれるんですよ。丸山えりさんっていうんだけど。草木堂野菜店という、群馬の野菜を都内の店舗で販売している八百屋さんが彼女を紹介してくれました。卵の他にも野菜やお米も栽培しているの、いろいろ手伝ってもらっています」  
智子「チラシをデザインしてくれたり、撮りためた写真を本にしてくれたり。若者が関わってくると元気がアイデアももたらえてとっても楽しいですよ」  
進「こういう人たちが地域の内外で出てくるように、ぼくたちが微力ながら貢献できたら嬉しいですよ」

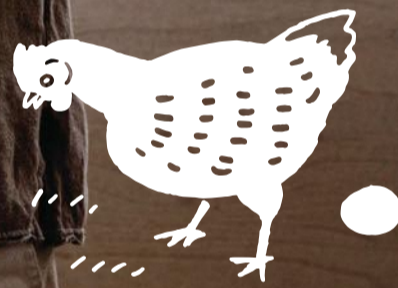


新たな可能性を創造する場「赤城山古民家IRORI場」

前橋市富士見町赤城山 1711-2

県都前橋を眺める赤城山。その赤城山の山頂へと向かう途中、ひときわ目を引く古民家「IRORI場」が姿を現します。築130年を経過してもなお、色あせない建物の魅力に惹かれた前橋移住コンシェルジュが、「前橋での新たなチャレンジの活動拠点にしたい!」という思いから、所有者と交渉に交渉を重ね、遂に活用が始まりました。不思議なことに、活用が始まってすぐに市民主導の新たな取組みが続々と始まりました。これまで前橋市内でくすぶっていた「めぶきの種」が、IRORI場のチャレンジをきっかけに、今続々と芽を出し始めているんです。市民一人ひとりが個性と能力を存分に発揮し、輝きを放つ「前橋らしさ」がここには詰まっています。いつかこの数々の芽が、大きな森をつくっていく。そんな可能性を感じさせてくれています。前橋で「自分らしく生きる」という大切さを、赤城に佇む古民家は教えてくれているのでしょうか。

榛名山から赤城山へ、  
200羽の鶏とお引越し。



JR前橋駅から赤城山へ向かうバスに揺られておよそ30分。県道にそびえ立つ大鳥居をくぐってしばらくすると、右手に瓦葺き屋根の立派な建物が見えてくる。市民の手によるリニューアルが進む赤城山古民家IRORI場だ。ここで今回取材したのは、養鶏業を中心とした兼業農家の竹淵夫妻、群馬出身の夫・進さん(61)は、妻の智子さん(61)とともに、都内から田舎移住(現・高崎市倉淵町)へ移住し農業を営んだのち、2017年に前橋へやってきた。どうして彼らは、農業の基盤ができてきている倉淵から前橋への移住を決めたのだろう。そして、実際に暮らし始めてどんなことを感じているのだろう。

の職員といった経験豊富な養育者が家庭に迎え入れるスタイルの家庭養護です。私の友人は2016年からファミリールームを始めたんですよ。週に2日は手伝っているの、これまでは専業農家でしたが、前橋に来てからは兼業農家になりました」  
まずは、赤城山の南麓に位置する富士見町に畑と田んぼを借りて農業を始めたという竹淵さん。4年ほど倉淵と前橋を行き来する生活をしたのちに、前橋で新たに鶏舎を作り、200羽にもなる鶏や雛たちを運んできたという。  
進「農業に関して言えば、倉淵と比べると標高が半分ほど低くなりました。倉淵は標高600m以上だったたので、農作物を作る環境としては非常に大きな変化ですね。標高の高い倉淵では、冬になると気温が氷点下10度くらいまで下がってしまうこともあるので、野菜が冬を越せない状況でした。また沢水がとても冷たいので、お米が生育しづらくて。一方、私たちが移り住んだ富士見町では、秋に蒔いた野菜、例えばニンジン、ブロッコリー、キャベツなんかは冬越しして春まで食べられるんですよ。反面、暑いのが苦手な鶏には、前橋の猛暑はかなり辛いでしょうね。暑すぎるって産卵する卵の数が目に見えて落ち

